

小中一貫教育とCSのさらなる充実へ

小中一貫・CS 通信

NO.52 R5.7.24 幕別町教育委員会 学校教育推進員

アフターコロナの1学期が終了します。行動制限、マスク着用義務等のない日々は学校にいつもの明るさをもたらしました。コロナ禍期間中に精査された教育活動も順調に進められ、小中一貫教育とCSの取組も一步一步確実に進んでいます。

1学期、本当にお疲れ様でした。夏季休業中は、1学期の疲れを癒し、ゆっくりと鋭気を養うことにしましょう。今回は、地域学校協働活動の特集です。

地域学校協働活動って何？

地域全体で子ども達の学びと成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して地域と学校がパートナーとして連携・協働して行う様々な活動のことです。

もともと社会教育分野で続けられてきた活動が統合・発展してきたもので、平成29年に改正社会教育法で正式に位置づけられました。

地域学校協働活動

- ・幅広い層の多くの地域住民が参画する
- ・学校を核とした地域づくりを目指す
- ・相互にパートナーとして連携・協働する

目標の共有 対等の立場

なぜ法律に位置付けられたの？

地域の教育力の低下、家庭の孤立化等の課題や、学校を取り巻く問題の複雑化・困難化に対して社会総がかりで対応することが求められていました。そのため、地域と学校がパートナーとして連携・協働するための組織的・継続的な仕組みが必要とされました。

また、学習指導要領が目指す「社会に開かれた教育課程」の実現のためにも学校が地域と連携・協働を進めていくことが不可欠であり、地域にも「より多くの地域住民が子ども達の成長を支える活動に参画する基盤」を整備していくことが重要になっていました。

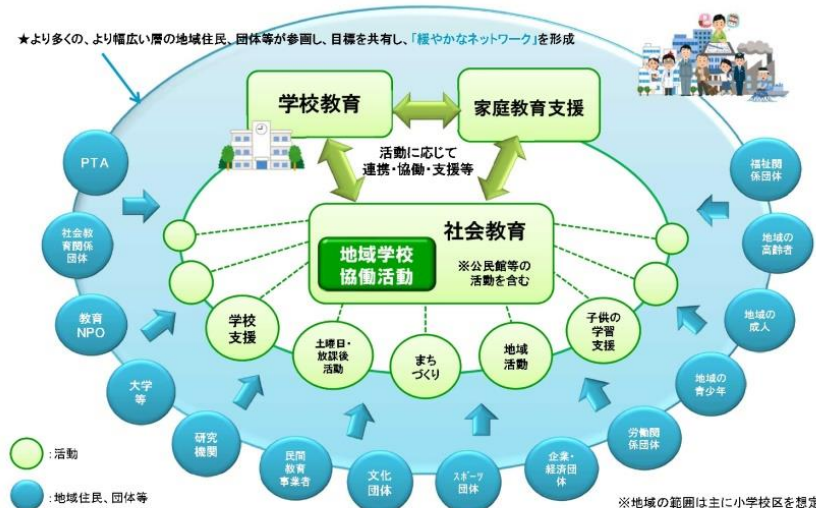
こうした社会的な背景により、平成29年3月に社会教育法が改正され、地域学校協働活動の全国的な推進が図られることになったのです。

地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）

資料3-3

- ◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。
- ◎ 従来の地縁団体だけではなく、新しいつながりによる地域の教育力の再生・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。

★より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成



※地域の範囲は主に小学校区を想定

文部科学省
ホームページより

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)との違いは？

学校運営協議会は、学校運営への必要な支援等について協議する場であり、コミュニティ・スクールは地域の知恵と願いを学校運営に導入する仕組みと言えます。

これに対して、地域学校協働活動は、学校支援等を実際に行う活動となります。目指しているものも、学校づくりと地域づくりの違いがあります。

コミュニティ・スクール 地域とともにある **学校づくり**

地域学校協働活動(本部) 学校を核とした **地域づくり**

地域学校協働活動を推進する組織として地域学校協働本部があります。これは、より多くのより幅広い層の地域住民、団体が「緩やかなネットワーク」を形作る体制となっています。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

今年6月に閣議決定された「教育振興基本計画」では、今後5年間の教育政策の目標と9つの基本施策の1つとして「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」が掲げられました。学校運営協議会と地域学校協働活動(本部)を両輪として、一体的に活動をする学校こそが真のコミュニティ・スクールだと、強く示唆されています。

いま全国ではこの実現を目指して取組が強められています。

幕別町の地域学校協働活動(本部)の様子は？

現在、地域学校協働本部が設立されているのは札内東学園のみとなっていますが、まくべつ学園とさつない学園では、協働本部設立を目指して活動協力員(学校ボランティア)の募集が継続中です。また、ちゅうるい学園では既存の組織との調整を図る話し合いが続けられています。糠内学園でも、地学協働本部に関わる話し合いが開始され、設立へのロードマップ作成が検討されているところです。

多くの学園で取組が始まったばかりというところですが、現在、各学園では、地域との連携による教育活動を洗い出し、パッと目に見える形に整理し、今後の活動の基盤づくりをしています。

先行している札内東学園は、令和3年10月に地域学校協働本部を設立しています。学園ではそれ以前から校区内に広く活動協力員の募集チラシを配布し、運営協議会委員からのお誘いも同時に進めて、人員を集めていました。9名の方からの応募があった時点で設立総会を企画しましたが、当時はコロナ禍真っ只中でしたので、何度かの延期を経てやっと設立にこぎつけました。設立後もコロナ禍のためなかなか具体的な活動が進まない状況にありましたが、令和4年度から大きく活動が進みました。

地域プロデューサー1名と地域コーディネーター2名を選出したこと(地域コーディネーター2名は運営協議会委員も兼任)、学校と支援活動の内容をすり合わせていったこと、体制や

活動内容の方向性をみんなで確認したことなどが奏功し、白人小学校に「チロッター」、札内北小学校に「キタヨー」という協力員が定期的に訪れ活動する体制が確立しました。今では、図書ボランティアを中心に体育授業のお手伝いや子ども達との交流など、いろいろな面で力を発揮しています。

このほか、老人会や町内会との連携による学園クリーン作戦にも協力しています。

町内の地域学校協働活動も少しずつではありますが、着実に歩みを進めているところです。



小中一貫教育・CS関係 8月の動き

- 4日(金) 糠内学園定例経営会議
 - 23日(水) 札内東学園 美幌町教育委員会視察来訪
まくべつ学園小中合同あいさつ運動
さつない学園小中児童生徒様子交流
 - 24日(木) 札内東学園合同部会
さつない学園小中合同あいさつ運動
(南小玄関前で合同実施)
 - 30日(水) 札内東学園特別支援学級夏の交流学習
さつない学園小中児童生徒様子交流
- ※8月~9月 さつない学園「こころ」部
特別支援教育部会 学校見学・支援学級説明会